



マワリ・ケイカイ・カシコイ・コロツヨイ・ココチイ・コセイテキ・クワシイ・キワメタイ...というように、パッソを表す様々なキーワードの集約でもある。

選ぶ楽しみを提供してくれるエコカー

第一に特筆すべきは外装カラーも含めたラインアップの豊富さ。ベーシックモデルXに

はGパッケージ・LパッケージS・Lパッケージ・S・ノーマルの5種、MODAにはGパッケージ・S・ノーマルの3種があり、すべてにFFと4WDがあるので、全16種類。外装カラーはグレード別にメーカーオプションもあるが、モノトーンが12色、ツートーンが7色と、全19色が設定されている。自分にマッチした一台を選ぶのは大変そうだが、カタログや実車を見ながらこれ考える時間は楽しいものである。

ベーシックモデルが実用的な小型車然としているのに比べ、MODAはよりスタイリッシュでスポーティな印象。フロントを見れば、ヘッドライト形状やグリル形状が全く異なるのですぐに判別できる。楕円のヘッドランプを持つMODAは、ミニを思わせる造形で、少しだけやんちゃなイメージがある。ツートーンの外装カラーが似合いそうだ。

主要諸元はほぼ同一で、試乗したMODAの3サイズは全長3,660×全幅1,665×全高1,525mm。ベーシックモデルは全長が10mm短い。エンジンは996cc直列3気筒DOHCの一本のみ。先代まで設定されていた1.3リッターは姿を消している。最高出力 69ps /

小型2ボックスのデザインなので、ボディ全体のイメージは大きく変わっていないように見えるが、ディテールはかなり変わっている。特に初代からのアイデンティティである前後フェンダーの張り出しは、先代までがキュートなイメージだったのに比べ、スポーティさや軽快さが強調されている。また曲面と直線が巧みに融合したデザインは、全体をややふっくらと見せ、キュートさを増している。初代と二代目は警察車両としても目にする機会が多かったため、そうした汎用性とタウンコミュニケーションとしての基本性能を満たしたベーシックモデルと、より個性的な愛車を求める方向けのMODAという棲み分けになるだろう。

インテリアはとてもシンプル。カタログに記載がある通り「飾らないオシャレ感」を演出していて、すっきりした印象だ。ダッシュ回りはナビやオーディオが納まる上段と、空調やシフトレバーのある下段に分かれており、その隙間には小物を置くスペースが設けられ

キュートでスポーティな外観と、ゆとりのクツロギ空間

6,000rpm、最大トルク9.4kgm/4,400rpmと、飛び抜けた数字ではないが、主にタウンコミュニケーションとして日常的に走行する分には何ら不満のない動力性能である。JC08モードでの燃費は、FFが28km/l、4WDが24.4km/lと、ハイブリッド車や電動車の高水準。ハイブリッド車はモーターや蓄電池の費用が加算されるため車両価格が上がるが、それを考慮するとかなりのエコカーであると言える。

基本性能と安全性能・エコ性能が充実 ファーストカーとして積極的に選びたいコンパクトカー



TOYOTA PASSO

■テキスト=横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=トヨタカローラ札幌 北二条店 Tel(011)231-2181

主要諸元：(MODA G "package" 4WD)

- 全長×全幅×全高/3,660×1,665×1,525mm
- ホイールベース/2,490mm
- トレッド/前:1,465mm 後:1,445mm
- 車両重量/960kg
- 最小回転半径/4.3m
- エンジン/1KR-FE (996cc 直列3気筒DOHC)
- 最高出力/69ps / 6,000rpm
- 最大トルク/9.4kgm / 4,400rpm
- JC08モード燃費/24.4km/ℓ
- ミッション/CVT
- ブレーキ/前/ベンチレーテッドディスク 後/リーディングトレーディング
- タイヤサイズ/165/65R14
- 駆動方式/4WD
- 乗車定員/5名
- 車両本体価格(札幌地区)/1,853,280円(消費税込)

プロフィール

カイトキ・カワイイ・カッコイイ、軽じゃないK

イタリア語で「ステップ」や「足音」の意味を持つパッソ。その軽やかなイメージを冠したトヨタのモデルカーがフルモデルチェンジされ、三代目となった。

初代パッソのデビューは'04年、二代目は'10年。いずれも女性をメインターゲットに、当時トヨタの最小モデルであったことから「プチヨタ」として広告展開を行ってきた。歴代パッソには常にダイハツ・ブーンという兄弟車が存在し、今回のフルモデルチェンジにあってもそれは継承されている。

基本コンセプトは「街乗りスマートコンパクト」。先代に比べホイールベースは50mm延長されたが、これは居住空間、特に後席足元の空間確保のためで、コンパクトな外寸と取り回しの良さは、街中や狭い駐車場などでも重宝する。そして何よりデザインが抜群に良い。ベーシックモデルと「MODA (モータ)」という2つのバリエーションがあり、フロントフェイスのデザインが全く異なっている点も新鮮だ。MODAは先代に設定されていたグレード「+Hana」の後継にあたる。

なお「軽じゃないK」というキャッチコピーがつけられているため軽自動車と思われるが、エンジンには1リッターである。「K」とは、カイトキ・カワイイ・カッコイイの頭文字を表現しており、さらにカイトキ・コダワリ・クツロギ・キノウテキ・コ



ディーラーメッセージ

トヨタカローラ札幌 北二条店

白鳥 将さん

発売以来、女性から中高年の男性まで幅広い方々から反響を戴いております。先進の衝突回避支援システム「スマートアシストII」が標準装備のグレードを設定したことで、より安全・安心なカーライフを実現するとともに、高効率のガソリンエンジンによって、28km/lという低燃費を実現しています。ベーシックなパッソ、ヨーロピアンテイストのMODAと2つの顔を持つ新型パッソ。ご来店、ご試乗お待ちしております。



インプレッション

優れた基本性能と コストパフォーマンス

乗車スペースは外観から想像するよりも広く、特に後部座席の足元と頭上に余裕がある。確かに2ボックス車は大量の荷物を積み込むうとする後部座席を犠牲にすることになるが、ハンドバッグなど手元に置きたい荷物程度であれば、大人4名、状況によっては5名が乗車しても窮屈感はない。フル乗車の機会はそう多くないだろうが、いざという時にこのゆとりは有り難い。

ている。このスペースは初代から採用されており、財布や携帯電話などを男性は衣類のポケットに入れることが多いのに対し、女性はバッグに入れて持ち歩くことが多いことから、目の届く範囲に置いておけるよう配慮されているものだ。企画の段階から女性スタッフが参加し、積極的に意見を交わしていることが伺える。

さて走り出してみるとボディ剛性向上とともに、足回りが非常に洗練されていることに驚かされる。路面の凹凸や轍を極端にドライバーに伝えてこない反面、クイックにステアリングを切り込んでも非常に安定した挙動でコーナーを抜けてくれる。弱アンダーよりも若干ニュートラル方向で、北海道の雪道においてはかなりコントロールしやすいと思われる。曲がりやすいし、挙動が把握しやすいのである。

また安全装備も充実した。設定されるアシ

スト機能は「衝突回避支援ブレーキ機能」「衝突警報機能（対車両・対歩行者）」「車線逸脱警報機能」「誤発進抑制制御機能」「先行車発進お知らせ機能」と充実を見せる。この5機能はスマートアシストIIと総称され、XとMODA（いずれもノーマルグレード）以外に標準装備される。構造においても「衝突安全ボディ」「歩行者傷害軽減ボディ」が採用され、エアバッグ、ABS、トラクションコントロールほか、先進の安全機能が搭載されている。これらの機能は他社でも採用が進んでいるものだが、パッソの場合、女性ユーザーを意識した「心づかい」が感じられる。例えば「先行車発進お知らせ機能」。信号待ちなどで前の車が発進したことに気づかない時、ブザーと警告灯で知らせてくれる機能だが、スマートフォンの見ていたり、ナビで場所を探していたりする場合、後続車に迷惑をかけず、ドライバー自身もクラクションなどのストレスを避けることができる。小型車を試乗する際に必ず感じるのは、「小さい車は小さいことに意味がある」ということ。昨今では軽自動車から中型車・大型車・スポーツモデルに至るまで、エコ性能と安全性能も極めて重要なファクターとなってきた。その意味でパッソのコストパフォーマンスは非常に高い。エコ性能・安全性能・走行性能・操縦安定性・静粛性、そして心遣いまでを含めて、よくぞこの車格にすぎ込んだなと感心せざるを得ない。車の保管場所や走行環境、購入費用、ランニング費用など、車を選ぶための条件は数多くあるが、それらを鑑みて「パッソでいいや」ではなく「パッソが良い」と能動的に選ぶことができるコンパクトカーであると思う。